

# 「安全で安心して暮らせるまち」をめざして



福岡市消防局長 山下 周成

福岡市は、北に玄界灘を臨み、海の中道と糸島半島が抱く博多湾に面しており、背後は背振山や油山などの山々に囲まれた福岡平野に位置しています。また、福岡・博多は、古来、大陸との交流窓口の役割を果たし、外交・貿易の拠点となって発展を遂げてきており、海を通じて世界とつながり育まれた歴史や文化、豊かな自然と充実した都市機能がコンパクトに整った魅力あふれるまちです。

福岡市では、多くの市民の皆様とともに策定した「福岡市総合計画」において、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出すことを基本戦略として掲げ、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざして、まちづくりを進めています。その結果、人口や来訪者数は増加を続け、市税収入が4年連続で過去最高となるなど、元気なまち、住みやすいまちとして、国内外から高く評価されています。

現在は、この元気で住みやすいまちをさらに発展させ、次のステージへと飛躍させるためのチャレンジ（施策）を「FUKUOKA NEXT」として、国家戦略特区を活用した新たな雇用の創出や都心部機能強化の推進などの施策に市民・地域・企業等と一体となって取り組んでいます。

消防行政におきましても、以下の3つを柱として、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりの推進に積極的に取り組んでいるところです。

1つ目は、「災害防ぎょ活動体制の充実」です。災害即応体制の強化を図るため、昨年11月には福岡都市圏における119番指令センターの共同運用を開始、そして本年4月には新中央消防署の供用を開始しました。新中央消防署は、災害拠点としての十分な機能を有した市内で最大規模の消防署となり、他都市からの応援消防隊の集結場所などに活用できる広大なスペースを確保するとともに、新たな機能として庁舎屋上にヘリコプターの離着陸場を整備し、実火災訓練室やマンションの間取りを模した訓練室を整備するなど、消防署としての機能を充実強化しています。さらに、新中央消防署に特殊車両を集中配置するとともに、これらの運用を行う、九州初となる本部直轄の機動救助隊を新たに創設し、大規模災害や特殊災害発生時の対応力強化を図ります。

2つ目は、「救急体制の充実」です。小・中学校の教職員に対して、指導者資格を取得できる救命講習を実施し、その教職員による小・中学生への救命講習を全小中学校で開始いたしました。また、高齢者に対しては、予防救急の啓発や県と連携した救急医療電話相談事業（#7119）の積極的な広報に努めるなど、増加する救急需要に対する体制強化に取り組んでいます。

最後の3つ目の柱は、「防火・防災体制の充実」です。高齢者世帯等を中心に、住宅用火災警報器の設置促進や維持管理に関する情報を市民に積極的に広報するとともに、連続放火を防止するための放火監視機器を設置するなど、地域と連携した放火防止に取り組んでいます。また、地震体験などができる福岡市民防災センターを活用した防災・減災教育を推進し、市民に防災意識の向上を呼び掛けています。

近年、全国各地で様々な災害が発生しており、市民の安全・安心に対する関心は一層高まっています。

福岡市消防局は、今後とも消防行政に対する市民ニーズや社会情勢を的確にとらえ、創意工夫を行いながら、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりの推進に努めてまいります。